

能勢・豊能まちづくりの挑戦

～エネルギーがかわる。まちがかわる。～

2025年1月



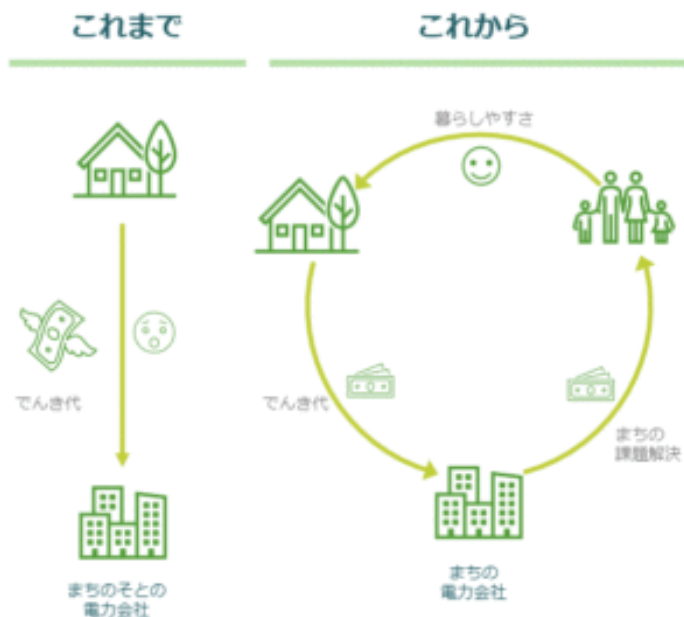
能勢・豊能まちづくり

弊社の概要

エネルギーとお金の流れを変えて、里山に活力をもたらしたい！

■ 事業コンセプト

地域外に流出していた富の還元を通じて、地域経済循環と脱炭素化の実現を目指す。

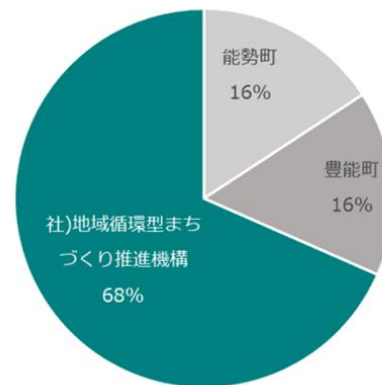


4つのプロジェクトに投資

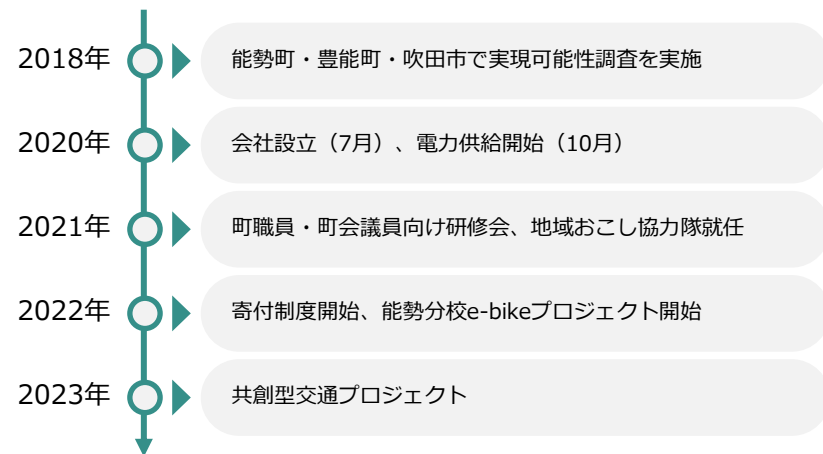


■ 株主構成

原則として、収益は事業維持、雇用、地域サービス開発等に利用することを協定書に明記（株主への配当は行わない）。



■ 沿革



1. 地域脱炭素化と再エネ活用

ゼロカーボンへの挑戦

地域の景観や生態系を守りつつ、自然のエネルギー資源をいかに活用するか

電源の調達方針

- 地域の自然資源である太陽、風、水、バイオマスなどを有効にかつ持続的に活用しており、温室効果ガスの排出削減に貢献していること。
- 生態系、騒音、景観といった地域の環境への負荷が小さく、住民の方々に広く受け入れられていること。
- 多くの地域住民の方々が主体的に関与し、その意思が尊重されている発電所であること。
- 発電所の建設・運転による経済的な利益が、地域内で適切に還元されていること。
- 発電所の運転終了後、廃棄まで責任をもって管理する計画となっていること。

電源構成 (2022年度実績値 (速報))

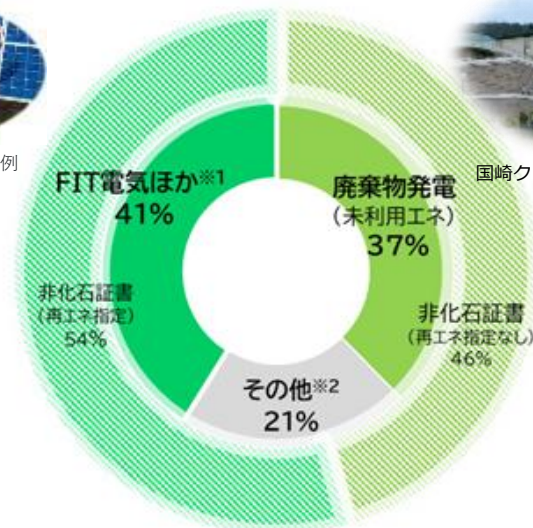
2022年4月1日～2023年3月31日
内側円：電源構成、外側円：非化石証書



みんな電力の発電所の例



国崎クリーンセンター



調整後排出係数 **0.000** kg-CO₂/kWh

※ 関西電力(株)の不特定の発電所から継続的に卸売を受けている電気については同社の2022年度の電源構成に基づき仕分けしています。

※1 再エネ(1%未満)もここに計上しています。

※1 FIT電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われています。

※2 他社から調達する電気の一部で発電所の特定ができないものは、「その他」の扱いにしています。その他には、化石燃料由来の発電、原子力発電等も含まれます。



地域住民に配慮した再エネ導入

2023年度ソーラーウィーク
優秀賞 受賞

住民から声を拾い上げる仕組みを目指して条例化

住民ワークショップの開催



2022年の ゾーニングマップ

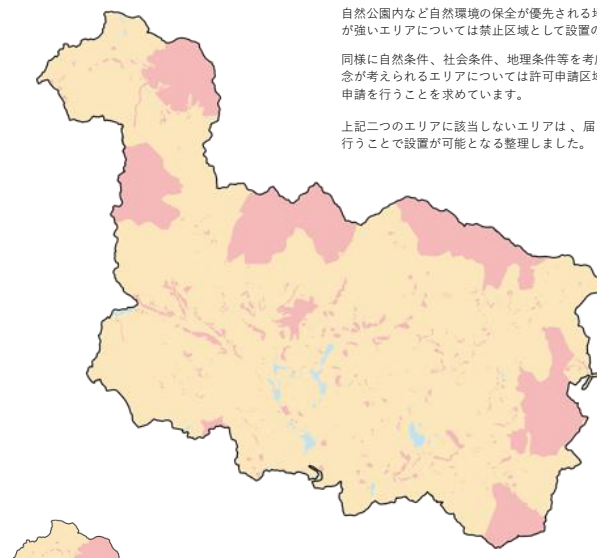


太陽光発電

自然公園内など自然環境の保全が優先される地域や土砂災害の懸念が強いエリアについては禁止区域として設置の禁止を求めています。

同様に自然条件、社会条件、地理条件等を考慮し、導入における懸念が考えられるエリアについては許可申請区域として導入には許可申請を行うことを求めています。

上記二つのエリアに該当しないエリアは、届出区域として、届出を行うことで設置が可能となる整理しました。



禁止区域

許可申請区域

届出区域



陸上風力発電

太陽光発電と同様に、自然公園内など自然環境の保全が優先される地域や土砂災害の懸念が強いエリアについては禁止区域として設置の禁止を求めています。

次いで導入における懸念が考えられるエリアについては許可申請区域として導入には許可申請を行うことを求めています。また風力発電については、気象レーダーや住居からの離隔も考慮しています。

風力発電については、町内いずれのエリアも禁止区域、もしくは許可申請区域に該当するため届出区域は該当しません。

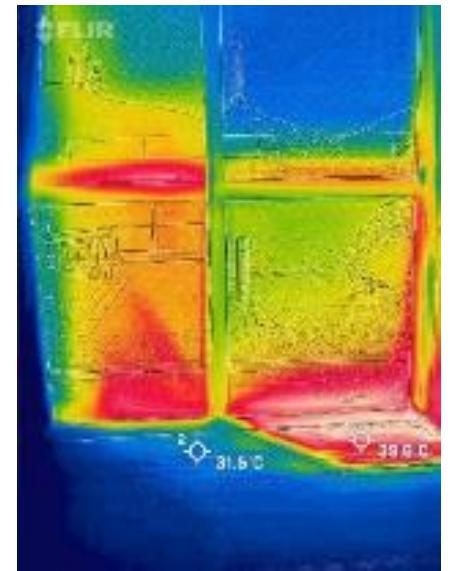
住民の意見を反映させて条例化（令和6年4月1日施行）



目指すは電気を売らない電力会社



資源エネルギー庁 省エネコミュニケーション・ランキング制度



2. 地域課題へのアプローチ

交通問題へのアプローチ

現状の地域課題と事業目的

能勢町には**鉄道駅がなく**、**路線バスも経営難から減便が進められている**。最寄りの駅から町内へのアクセス方法が自家用車に限定されつつある中で、**地域の観光業への影響や、高校への通学課題**といった地域内外の**移動・交流手段の途絶に対する懸念**が増している。

こうした状況を踏まえ、**昨年度、人材育成事業**としてこうした交通課題を解決するための事業モデル構築を行った。**本年度はこれをさらに深堀し、共創型事業モデル創出に向けた具体的な事業モデルについて実証を行う。**

令和6年度（今年度）は、**通学、観光に絞り込んで実証運行を実施**

通学

観光



路線バスに代わる交通手段の確保（観光・通学）

国土交通省の共創型の交通実証モデルを開発・実証中



アプリによる情報一元管理



拠点+基幹交通のパッケージ



能勢分校E-bikeプロジェクト

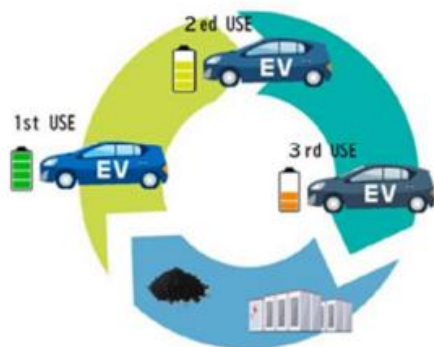
第10回グッドライフアワード
環境大臣賞 受賞

自分で作ることによる「身近さ」へのアプローチ



公用車がけん引する自家用車の脱炭素化（EV化）

住友三井オートサービス社とリユースEVの公用車利用を実証



- 脱炭素化への貢献
- 循環型社会の実現
- EVの普及・促進



わかったこと

▶ 使用感は？

公用車のユースパターンではリユースEVは問題ない。電池の劣化も限定的

▶ 心理的ハードルは？

他の内燃自動車に比べてEVは利用されにくい傾向（心理的課題）

▶ 経済性は？

リユースEVの費用はガソリン車よりも低価格化が可能

▶ 安全性は？

不具合が一部発生。安全性を担保する仕組みが必要



わかもの課題への挑戦

能勢分校との連携を中心に、能勢・豊能地域でのわかもの取り組みを包括的に支援

■ 教育支援

「能勢町・能勢分校連携講座」（本年度は2024年11月12日に予定）やキャリア教育プログラム等を通じて豊中高校能勢分校やささゆり学園の教育コンテンツの充実に貢献

■ 通学支援

国交省の共創プログラムやE-bikeプロジェクトを通じて分校の通学の交通手段確保に貢献

■ 高2留学制度

総務省の高2留学制度の支援を行う事業を能勢町より受託。

■ 海外交流

寄付を通じてフィリピンスタディーツアーを支援。5名の高校生が6泊7日でフィリピン（ルソン島）の北西部アブラ州へ。この他、他地域の高校生の受け入れ事業等にも貢献したい。



写真出典：豊中高校能勢分校Facebookより引用



防災課題への挑戦

設備が「ある」から「使える」へ

能勢町役場の自立運転テスト



ささゆり防災合宿



EVからの電力供給テスト



ロケットストーブ



気候変動にどう備えるか

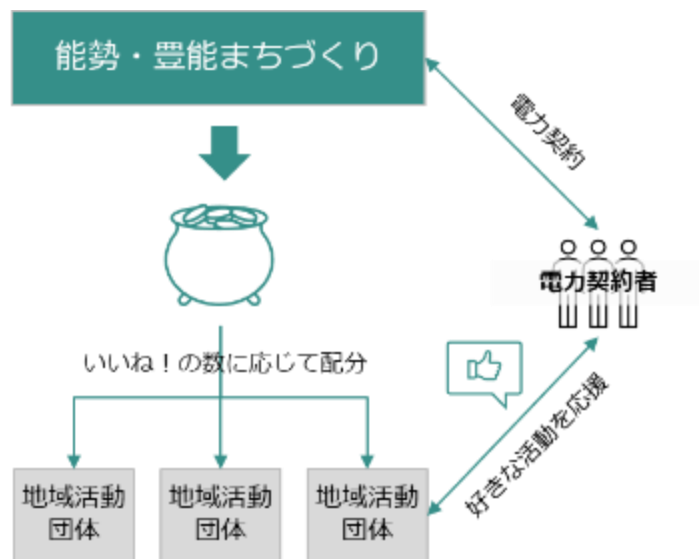
国立環境研究所との実証研究



3. 地域経済循環への挑戦

寄付を通じた経済循環

地域で既に活動する団体と連携、恩送りする仕組みを実装



応援団体（寄付先）が新たに加わってくれました！

～能勢・豊能まちづくりの電気で、地域の団体を応援できます～



電力売上の2%を17のまちづくり団体に寄付



江坂ひとときプロジェクト

第35回緑の環境プラン大賞
第一生命賞 受賞

能勢町、吹田市、森林組合と建築物等木材利用促進協定締結



里山の資源をまちなかで楽しむ環境を整備



能勢・豊能まちづくり

< 2023 Nose-Toyono Machidukuri. All rights reserved.>

私たちが直面している課題と今後の挑戦

- 再エネの導入と地域住民の景観への想いをどう調和させていくか？
- 財政的余裕がない中で、脱炭素化のための設備投資（再エネ、EV充電器）の費用をどう捻出していくか？
- 限られた人的リソースの中で、交通課題、学校の維持などの地域課題との連携をどうすすめるか？
- 行政区分を超えるようなよりダイナミックな地域連携をどう進めるか？
- 気候変動の適応策をどう進めるか？

